

金沢こころの電話

# ほっとライン

No.102

金沢こころの電話  
ご相談は... **222-7556**

シルバーこころの電話  
**260-7272**



講演する松原三郎先生

## 全体集会

### 精神障害者の疾患 および心理状態の理解

第3回全体研修会が平成28年10月22日(土)、金沢市教育プラザ富樫で開かれ、松原病院長松原三郎氏が「精神障害者の疾患および心理状態の理解」をテーマに講演した。

講演の要旨は下記の通り。



#### 精神科疾患と治療の動向

夜間電話相談・救急医療体制の充実や患者の地域移行と地域定着の推進など、松原病院長の取り組みが紹介された。



#### 新しい年に当たって

金沢こころの電話 会長 中村 宏兵  
今年「政治・経済が大きく変化する年」と思う。米国は自国中心主義になり、英国はEUを離れ、ドイツ・フランスで選挙があり、今までにない政党が力をつけているという。その中で、金沢こころの電話はどうなっていくのだろうか。今までにない発想と行動の仕方に変化し、チャレンジしていく必要を感じている。  
「極端な人が面白い」と言える余裕が欲しいと思っている。

#### 「精神障害を持ちながら地域に住む人達」を支える

医療と福祉が連携し、精神障害者に対する相談体制や

#### 日常診療の中から 見えてきた課題

様々な症例を紹介した上で、病状が悪化する前の早期の対応が不十分であることや、今後は、普段から公的機関と民間病院が連携しながら訪問診療が行われていくことが望ましい。



金沢こころの電話が、地域に戻った精神障害者の心の支えになることにより、病院が少しでも精神障害者を安心して地域に戻すことのできる環境づくりの一助になるであろう。(記・渡辺)

## カウンセリング エッセイ

### 少年事件～子どものパートナーとして “わたしはお地蔵さん”

弁護士 多田 元



私は若い頃家庭裁判所裁判官として子どもと非行の問題に出会い、「非行少年」と呼ばれる子どもは、非行に至る前に、虐待、いじめ、体罰などさまざまに傷ついた「被害者」であることに気づきました。そして、少年法の福祉的、教育的援助により、理解され、受容される体験によって、子どもは不信や自己否定で閉ざした心を開き、自分らしい自立へと歩み始める実例を多く知りました。1988年に金沢地裁を最後に退官し、1989年に弁護士を開業しました。

で、母と葛藤をしていました。その後数回の面接、子育てに悩んでいた母親と面接をして一応の経過を知った頃、彼女に警察での取調の経過を確認したとき、担当警察官が彼女の話を耳をかさず、大声で問い詰める姿が、父と二重映しになってイヤだったと話し、涙がひとつぶこぼれて「これまで人前で涙なんか見せなかつたのに」とこらえています。とつさに「弁護士は人じゃない。お地蔵さんだと思って、泣いていいよ」と言うのと、一瞬笑った彼女の目からとめどなく涙が流れました。

ら、その日は黙ってきれいな涙を見ていただけの面接になりました。「自分を好きでない」から「自分は自分でいい」に変わっていく出発点になればと願いがら。とても大切な時間だったように思います。  
彼女はその後からすっきり明るい表情になり、面会をした母親も担当の家庭裁判所調査官もその変化に驚きました。少年審判でも更生の可能性を認められて家庭に戻り、就職もできて、母と幸せな生活をしています。その姿から、子どものパートナーとなる弁護士の役割をまたひとつ教えてもらったのです。



(注)少年法は弁護士の役割を少年の「附添人」と規定。2000年厳罰法の改正で漢字を付添人と変えたが、「付」は交付などを与えるの意味を含み、「附」は「寄り添う」の意味を含むので、私は「附添人」の漢字が役割にふさわしいと考えて使っている。

編集後記  
カウンセリングエッセイに寄稿いただいた多田元さんは、28年前の金沢在住時に、不登校を考える会「おーぶんはうす」を立ち上げた。その後名古屋へ転居されたが、月1回金沢まで愛車を運転し、その会にほとんど参加されている。  
多田さんが、子どもの不登校で悩んでいるお母さんの話に対して「お母さん、優しい子に育てられましたね」とまず肯定されたのはびっくりした。(記・小林)

発行 公益社団法人 金沢こころの電話  
事務局 〒920-0964 金沢市本多町3-1-10  
電話 (076)222-7531  
FAX (076)222-5352  
e-mail kkd@beach.ocn.ne.jp  
編集 広報部会  
印刷 (株)橋本清文堂



# 水曜研修グループオープン講座

平成28年11月9日(木)、松ヶ枝福祉館において金沢こころの電話水曜研修グループの勉強会が開かれ、通常勉強会の後、会員なら誰でも参加可能なオープン講座を1時間行なった。講師は当会相談役の大友順治氏。



大友順治先生による勉強会の風景

同氏は重症心身障害児(者)や小児病棟の現場・外来通院者の治療・療育を経験してきた。「つれづれなるままに」と題して子ども達の肥満、不登校、心身症などについて語った。その内容は、

## 【肥満】

肥満の定義・問題・治療法(食事・運動・心理療法)について。不安傾向診断テストによると、肥満度の高い子と不登校の子の傾向(泣き虫、駄々っ子、すねるなど)が似ている。肥満児は「暑苦しい、動きがのろい」などと判断されることがあり、最初は腎臓

## 【不登校】

登校を拒否しているわけではないので、「登校拒否」から「不登校」という表現に変わった。不登校のきっかけの4分の1は原因不明だが、多くは人との関係が原因と考えられている。統計上、中学1年のタイミ

ングと、早生まれの子が多い。

## 【心身症】

様々な心身症の種類と分類について、行動異常的発症の具体例が紹介された。抜毛症(自分で体の毛を抜く、食べる)、過呼吸、拒食症、緘黙(かんもく)、チック症、吃音、強迫性完壁主義などがある。虐待が増えており、これは脳下垂体の成長ホルモンを止めることにつながる。

最後に、「ストレスが無い生活はあり得ない。どの程度のストレスかを測定することが必要。3歳児検診では現れない症状が5歳児検診で現れる場合もある」との話も出た。

現在、金沢こころの電話の相談窓口では、子どもからの電話相談を受けることはほとんど無い。しかし、子どもの心身症について知る事は、相談者の過去や現在、家族の状況などといったバックグラウンドを推し量ることに役立つであろう。(記・山崎)

# 世話人研修会で学んだこと

## 第3回世話人研修会

平成28年10月31日(月)、石川県社会福祉会館において世話人研修会が行なわれた。ロールプレイにおけるカウンセラーの応答について古市相談役よりコメントをしてもらった。クライエントの気持ちに焦点を当てつつ、「①クライエントの事実関係の確認 ②クライエントの今の感情、気持ちについて ③クライエントはどうなってほしいのか」の3本の柱からクライエントの主訴をとらえていく学びを実習した。

世話人が2人ペアでクライエント役とカウンセラー役を担い、応答がどうであったか記録を書き振り返った。今回は私はカウンセラー役で「オウム返しが出来ていないこと」「クライエントの不満を具体的に確認する必要があること」を助言された。講師からの指摘や気づきはリフレッシュ剤になった。自己流に流されず傾聴したい。現世話人16名には実習での学びが量的にも質的にも要求されている。(記・柿崎)



# 小春日和に ふれあいの集い



多くの会員で賑わったふれあいの集い

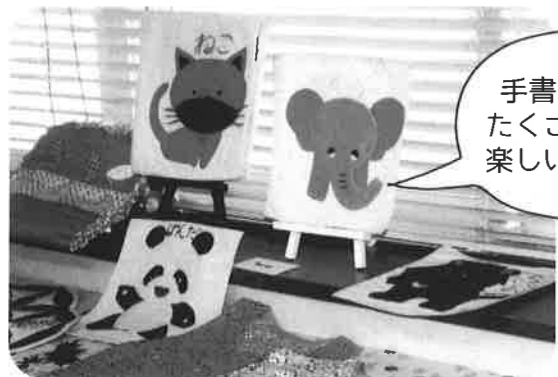
金沢こころの電話ふれあいの集いが、平成28年11月26日(土)、金沢市の松ヶ枝福祉館で開かれ、20人近い賛助会員と多くの会員が参加した。この集いは、本会を資金面で協力

いただいた賛助会員に感謝の気持ちを伝え、交流深まる機会にと初めて企画したもので、スタッフの温かいもてなしは賛助会員同士や会員同士のつながりにもなった。広々とした会場には、喫茶・

文化祭・休憩の3つのコーナーが設けられた。喫茶コーナーでは会員手作りの人参ケーキやシフォンケーキが香り良いコーヒーとセットで提供され、和菓子付抹茶は着物姿で接待するなど、おいしさやスタッフの細かい配慮が見られた。昼食時にはゴボウや鶏肉入りの炊き込みご飯も用意され、来場者はゆったりとした休憩コーナーで飲食しながら会話を楽しんだ。

また、「家族が(本会)活動に関わっているから」との事で、林幸子さんから深紅色が食欲をそそるたくさんの梅干しとシソ粉が提供され、来場者に好評だった。

文化祭コーナーでは、水彩画・水墨画・色紙や巻紙にかな文字を書いた書・俳句・切り絵・写真・子供服・各種パッチワーク・袋物・抹茶碗やペットをモチーフにした陶芸



右下のような手書きの案内がきなどたくさんの会員の協力ですました。

# 金沢こころの電話 ふれあいの集い



等々、会員の隠れた特技や趣味が披露された。これら80点余りの労作、秀作を見入る来場者から作品の解説を求められる場面もあり内容濃い美術展となった。

「懐かしい皆さんにお会い出来、何年か前に戻った気分」、若宮欣亘さんは「参加しやすい会場、楽しい催し、今後も続けて欲しい」と話した。干支の折り紙を出展した本会の中村会長は「賛助会員と楽しく交流が出来た。この絆を大事にしたい」と話す。(記・古田)

## 平成29年度「公開講演会」のお知らせ

次年度はお二人の講師をお招きし、一般市民も参加できる公開講演会を開催します。第1回目は「人の回復には、諦めはありません～家族・当事者の経験を持つ精神科医から伝えたいこと」をテーマに、児童精神科医の夏苺郁子氏。第2回目は、「心豊かに生きるために～心の居場所30年 クッキングハウス」をテーマに、ソーシャルワーカーの松浦幸子氏。後日改めて申込方法等広報します。

